

総合型選抜 栄大スカラシップ 基礎学力試験問題

科目	ページ		解答番号
化学基礎	冊子の 左側より	P1 - P3	1 - 8
生物基礎		P4 - P10	9 - 16
国語	右側より	① - ⑫	17 - 32

問題数は全部で31問です。

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまでこの問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は上記3科目で60分です。各科目の時間配分は自由ですが、マークシート解答欄への塗り間違いにはご注意ください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不明瞭、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答用紙
解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
※解答用紙の注意事項もよく読んでからマークしてください。
① 氏名欄：氏名を記入してください。
② 受験番号欄：受験番号の下5桁を記入し、さらにその下にマークしてください。
正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用して差し支えありません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

解答箇所は

17

く

32

です。

問題、次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えなさい。（設問の都合で本文の段落に1～13の番号を付してある。）

1 元来、砂糖は西半球に存在せず、食生活のなかで主要な甘味料といえは果実や蜂蜜などに限られていた。イギリスでは、1650年代以降、カリブ海の植民地確立にともない大規模で定期的な甘味の供給源が確保されるまでは、砂糖は王侯貴族など、ごく一部の権力者だけが享受できる贅沢品ぜいたくひんであった。砂糖が珍奇な奢侈品しゃしひんから日常的な必需品になっていく過程は、まさに (ア) レッキョウ諸国の植民地支配や強制労働にもとづくプランテーション制度の発達に (イ) 裏打ちされたものであった。

2 A ミンツミンツは、プランテーションにおけるサトウキビ生産からイギリス本国での砂糖消費に目を転じ、支配層の独占品であり特権階級のステイタス・シンボルとしての砂糖が労働者階級の食卓になくはならないものになっていく様子を描く。重商主義体制のもと、植民地における生産拡大は市場への供給 (イ) カジョウを生みだし、本国での砂糖価格の大幅な下落を引き起こす。その結果、紅茶やジャムの普及とあいまって、砂糖はそれまで水にパンをひたすしかなかった下層労働者の大切なカロリー源となっていく。砂糖は、工場制度下の肉体労働者の血と肉になり、産業革命に必要な X 熱量を供給することになったわけである。

3 ミンツの砂糖研究における卓見は、その生産(地)と消費(地)を同時に考察しているところである。多くの食べ物の研究は、しばしば「作る」か「食べる」か、どちらか一つに (b) 軸足を置く。例えば、農学研究者は、いかなる環境でどのような技術をもって食物生産が行われるかを考察してきた。また、消費地における食べ物の調理法や文化的意味を論じる研究も多い。しかしながら、さまざまな二分法―新世界と旧世界、「生産」と「消費」、サトウキビと砂糖、プランテーション

と都市、カリブ海とイギリス、植民地と宗主国、奴隷と農園経営者、工場労働者と資本家を越えた複眼的な視点をもつのが本書の特徴である。ミンツの食研究は、サトウキビという商品作物への注目によって、これらの「Y」の束を一つのものとして考察する。その分析単位も、個人や家族、プランテーション、植民地と宗主国、そして「グローバル・サウス」と「グローバル・ノース」まで、あたかも^B多重焦点レンズのように、ミクロとマクロな考察対象が継ぎ目なく接合されている。砂糖の生産地であるカリブ海地域と消費地であるイギリス都市部は、連結したひとつの空間として考察され、プランテーションの奴隷たちと産業革命のもとで工場労働者になった英国の都市民がグローバルな関係性によって結ばれる。

4 ミンツのこのようなダイナミックな食研究は、現在の文化人類学では「商品連鎖（コモディティ・チェーン）」という鍵概念のもとで新しい研究に引き継がれている。これは、生産地と消費地を複眼的に考察し、これらをつなぐ「流通」や「供給連鎖」のなかに形成される生産システムや市場、これをつかさどる人や組織のつながり、そこに見られる生態環境、技術、社会、文化の接合動態を分析するものである。

5 なお、「商品連鎖」については、バナナ（鶴見 1982）、エビ（村井 1988）、ナマコ（赤嶺 2010）、マツタケ（Tsing 2015）、油ヤシ（Ishikawa and Soda 2019）などの研究を参考されたい。

6 ミンツの食研究は、従来の村落コミュニティなど閉じた空間から分析対象を拡大したという意味で画期的である。生産地域のカリブ海と消費地のイギリス都市部、この2つの空間の比較のみならず、「コロンプス交換」以降に大きく変化した地球大の人とモノの移動、そしてこれを誘引した旧世界と新世界の権力関係など、その議論はきわめてユニークである。しかしながら、分析単位の拡大のもとでも、ミンツはミクロな現象への注目を怠らない。以下では、イギリスとカリブ海の「食」をつなぐサプライ・チェーンの両端で起きたミクロな文化変容に注目してみよう。考察するのは、18世紀のイギリス労働者とカリブ海におけるアフリカ人奴隷の食習慣の変化である。

7 ミンツは『甘さと権力』のなかで、18世紀のイギリス労働者階級の消費行動に大きな影響を与えた紅茶、砂糖、煙草は、人類が初めて大量消費した産品であることを指摘する。しかしながら、この本のなかで答えられなかった疑問がある。それ

は、なぜこのように急激に、そしてたくさんの人々、特に労働者階級の食習慣が大きく変化したのか。ミンツは亡くなる前のいくつかの論考で、^Cこの問いを考えるための道筋を示している（Mintz 1990の第2章参照）。

8 まずミンツは、食の変化を考えるために power と meaning という2つの概念に注目する。以下では、power に対しては「力」「権力」「外的な力」「構造的権力」など、meaning に「意味」や「内的な意味」などの訳を、^ウテキギ|コンテキストに応じて充てる。

9 イギリスにおける砂糖の消費は、イギリスの海外進出と植民地征服を背景としたものであり、アフリカ人奴隷貿易の伸長と植民地におけるプランテーション農園の増加に深く結びついている。当時、本国イギリスでは、工業化、農村人口流出、そして都市化が進行していた。かつては稀少^{きせう}で高価な舶来の薬とスパイスであった砂糖は、この時点で安価なものとなり、その消費が拡大した。砂糖が手に入りやすいということは、それが消費される社会的な^ウ文脈や場が増えたということを意味する。砂糖は、特にココア（チョコレート）、コーヒー、そして紅茶という刺激作用をもつ飲み物との関わりを通して日常生活のリズムに組み込まれるようになり、イギリスでは特に紅茶を飲む習慣が大衆化する。

10 食にまつわる社会変化を考えるうえでは、砂糖を人々に身近なものとした「マクロ」な政治経済的変化と消費者の日常生活での「ミクロ」な状況を分けて考えることが大切である。人々にとって食べるという行為の意味は、外的な力と結びついた変化がすでに進行中であるときに立ち現れる。私たちが自分たちの行為に付与する意味は、他方で外的な力や権力の影響のもとにある。これは国家やグローバル化、特定のサブ・システムのなかで現れる組織的な力とかかわるものである。この大きな外的な力を生じさせるのは、個人やコミュニティを越えた制度や集団であり、より大きな経済や政治のシステム、そしてこれを運用する人々である。

11 これらの「力」は、労働時間、場所、食事時間、^エコウバイ力、子どもの世話、余暇の^オカンカクなど、人間のエネルギー消費に関係するさまざまな事柄を規定する。個人、家族、社会集団の日々の営みにおいて、これらの構造的な力は慣れなものを当たり前のものに変え、物質的な世界に新たな意味を授け、つつましい、とるに足らないようなモノや行為に

重要な意味を付与する。どこで、いつ、どのように、誰と、何と、そして、なぜ、といったことすべてに意味が与えられ、新しい行為が古い行為のうえに上書きされ、その他の行為は忘れ去られる。かくして新しいパターンが古いパターンに置き換えられていく。

12 D このようなミクロな意味世界の変化は、外的な力と構造的変化の制約のなかで起こる。すなわちミンツが「大変化」(グラント・チェンジ)と呼んだプロセスのもとで、食にまつわる行為に内的な意味が与えられる。重要な意味が日常生活の行為のなかに埋め込まれることこそが、まさに人類学者の語るところに「文化」の生まれるプロセスである。

13 ある特定の出来事や現象は、個人や集団にとって異なった意味をもつ。例えば、奴隷制と奴隷貿易は、イギリスの工場労働者や農民にとっては、より多くの砂糖の供給を意味する。しかしながら、奴隷制に基づくシステムは、プランテーション経営者、銀行家、植民地省の官吏たちにとっては別の意味をもつ。いうまでもなく、奴隷やその子孫にとっての奴隷貿易や奴隷制、そしてプランテーションでの労働の意味は、資本家や政治家たちのそれとはまったく異なる。ものが何を意味するのか、そしていかにものごとが起き、その結果はいかなるものか、人々の行為にどのような意味が付与されるのか―現象の原因と因果関係を考えるためには、^Eさまざまに「意味」の弁別を心がける必要がある。

―石川 登「食物の生産と消費の社会史―旧大陸と新大陸をつなぐ食」
『食の世界を生きる 食の人類学への招待』河合利光編著による―

(出題の都合上、一部中略した箇所がある)

④

(注) 1 ミンツ：シドニー・W・ミンツ。アメリカの人類学者(一九二二～二〇一五)。

2 本書：ミンツの著書『甘さと権力―砂糖が語る近代史』を指す。

3 グローバル・サウス：南半球を中心とするアジアやアフリカなどの新興国や発展途上国の総称。

4 グローバル・ノース：北半球を中心とする先進国の総称。

5 コロンブス交換：コロンブスが新大陸に到達して以降、旧大陸(ヨーロッパやアジア)と新大陸(南北アメリカ)の間で作物などのさまざまな交換が生じたこと。

問1、傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕 17 ～ 21 〔

(ア) レッキョウ

17

- ① 作品のユウレッツをつけがたい。
- ② カレッツな戦いを繰り広げる。
- ③ 風船が押されてハレッツする。
- ④ 電池をチヨクレッツにつなぐ。

(イ) カジョウ

18

- ① ジョウヨキンを返還する。
- ② カゲンジョウウジヨを学ぶ。
- ③ ジョウチヨウな話を制す。
- ④ ケンジョウゴを正しく使う。

(ウ) テキギ

19

- ① キョギの証言を禁じる。
- ② 植物をギジンカする。
- ③ 顧客のベンギを図る。
- ④ サギの被害を未然に防ぐ。

(エ) コウバイ

20

- ① 二人の実力はコウオツつけがたい。
- ② ゲームのコウリヤクサイトを見る。
- ③ 雑誌のコウドクを取りやめる。
- ④ 大学のコウギを受ける。

⑥

(オ) カンカク

21

- ① 敵を大声でイカクする。
- ② 機械をエンカクソウサする。
- ③ 米をシュウカクする。
- ④ 組織のチュウカクを担う。

問2、傍線部(a)～(c)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕 22 ・ 23 ・ 24 〔

(a) 裏打ち

22

- ① 見えにくい状態にすること。
- ② わかちがたい状態にすること。
- ③ 表に出して明らかにすること。
- ④ 補強して確かなものにすること。

(b) 軸足

23

- ① 重点とする部分。
- ② 発端とする部分。
- ③ 問題視する部分。
- ④ 注目を引く部分。

(c) 文脈

24

- ① 網状につながっているもの。
- ② 背景となっているもの。
- ③ 欲望をかきたてるもの。
- ④ 働き行動するもの。

問3、本文中の空欄 X・Y に入る最も適当な語を、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 25・26〕

X	① 強制的	② 社会的	③ 情緒的	④ 総花的
Y	① 排他性	② 流動性	③ 関係性	④ 革新性
				26
				25

問4、傍線部A「ミンツ」とあるが、その研究の特徴として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 27〕

- ① 食の生産と消費の両面を同時に考察し、グローバルな視点ももちながらミクロな事象にも目を向けていた。
- ② 食の生産だけでなく消費のミクロな面にも注目し、閉じたコミュニティの食文化を明らかにした。
- ③ 食の生産と消費を二分法の視点で分析し、ミクロな変化がグローバルな変化をもたらした過程を示した。
- ④ 食物の商品連鎖に変化をもたらした多種多様な要素を分析し、都市部における消費の独自性を発見した。

⑧

問5、傍線部B「多重焦点レンズ」とあるが、この語でたとえられている内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 28〕

- ① ミクロな事象の観察とマクロな変化の把握という、矛盾をはらむ複数の研究が統合されているということ。
- ② ミクロな視点とマクロな視点のいずれにおいても、その考察対象が一体的に把握されているということ。
- ③ ミクロ的なものとマクロ的なものの二分法を進展させ、多面的な分析を得ることに成功したということ。
- ④ マクロな視点を導入することによってミクロな事象を結びつけ、より高次の視野を確保したということ。

⑨

問6、傍線部C「この問いを考えるための道筋」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 29〕

- ① 労働者階級の食生活を劇的に変容させた外的な影響力を説明するために、人々のエネルギー消費の配分の仕方を決定する物質的な要因に込められた意味をミクロとマクロの両面から観察すること。
- ② 労働者階級を中心とする人々の食習慣に変化をもたらした外的な力を説明するために、人々が政治経済での変化にどのような意味づけをしていたか、ミクロな視点で観察すること。
- ③ 労働者階級の食生活というミクロな事象にマクロな状況が与えた影響を説明するために、特権階級の政治経済的な権力構造の変化をもたらした外的な力の分析に重点を置いて考えること。
- ④ 労働者階級を中心とする人々の食習慣に急激な変化をもたらした要因を明らかにするために、マクロな政治経済的変化とミクロな日常生活の変化に込められた意味を区別して考えること。

問7、傍線部D「このようなミクロな意味世界の変化は、外的な力と構造的変化の制約のなかで起こる」とあるが、それはどういふことか。その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

「解答番号」

30

- ① 政治経済の構造的な変化という外的な力の影響を受けて、人々の日常生活の行為のなかの重要な意味が無価値化し、新しいものの上書きされていくということ。
- ② 政治経済の構造的な制約を受けて、人々が日常生活の行為のなかに埋め込んでいる重要な意味が固定化し、儀式的なものに変遷していくということ。
- ③ 政治経済的な権力などの外的な力の影響を受けて、人々の日常生活の行為のなかに新しく重要な意味が埋め込まれ上書きされていくということ。
- ④ 政治経済情勢などの大きな変化に適應するために、人々が日常生活の行為のなかで行った工夫が新しく重要な意味をもち文化となっていくということ。

⑩

問8、傍線部E「さまざま『意味』の弁別を心がける必要がある」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なもの、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

「解答番号」

31

- ① 現象の原因と因果関係を明らかにするには、その現象が社会にどのような意味を作り出したのかを知る必要があるが、単一の個人や集団の視点ではその現象の真の意味を理解することはできないから。
- ② 現象の原因と因果関係を明らかにするには、その現象が人々の行為にもたらす意味を把握する必要があるが、同じ現象でも個人の行為に付与する意味と集団の行為に付与する意味は異なるから。
- ③ 現象の原因と因果関係を明らかにするには、その現象が人々にとって何を意味するのかを明らかにする必要があるが、同じ集団に属する個人でも、同じ現象に対して異なる意味を見出すことがあるから。
- ④ 現象の原因と因果関係を明らかにするには、その現象がどのような意味をもつのかをとらえる必要があるが、同じ現象でも異なる個人や集団にとってはまったく別の意味をもつことがあるから。

⑪

問9、この文章の構成に関する説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 32〕

a 1 段落でミンツの研究についての予備知識を述べ、2 段落でミンツの研究内容を概観し、3～6 段落でその特徴を説明した後、7～13 段落でミンツの研究が示唆する現象の背後の因果関係をとらえるための方法論を述べている。

b 1～3 段落でミンツの研究内容を概観しながらその特徴を示した後、4～6 段落でその研究が文化人類学に与えた影響を述べ、7～12 段落でミンツの方法論を掘り下げ、13 段落でミンツの研究に対する筆者の評価をまとめている。

c 1 段落で砂糖の歴史の概略を述べ、2～5 段落では砂糖についてのミンツの研究の特徴を具体的に説明し、6～12 段落でミンツの研究の発展余地を示唆した後、13 段落で砂糖の供給の背景についての筆者独自の見解を示している。

d 1～7 段落でミンツの研究内容の特徴とその独自性について説明した後、8 段落でその研究における重要な概念を紹介し、9～13 段落でそれらの概念を援用して歴史上の食の変化にまつわる筆者自身の見解を述べている。